

⑤ NHK番組制作班 編

『日本がわかる名字の謎：
日本人のおなまえ』
(集英社インターナショナル)

日本にはたくさんの名字があります。その中には鈴木や佐藤のように一般的なものから四十物さんのようにふりがながないと読めない難読なものまで様々な名字があります。ちなみに鮮魚と塩魚の中間のものという意味で四十種類あるそうです。四十物と書いて「あいもの」とよむそうです。

この本は「知っていると思える名字ウンチク」、「超レア名字の謎を深堀」「超難読名字の謎を大解明」、「超ビックリな由来を持つ名字」の4章からなり、どの章から読み始めても楽しく読み進めることができます。(N.T)

288.1 ||Niho

⑦ ジャック・ルヴロン 著、ダコスタ吉村花子 訳

『ヴェルサイユ宮殿影の主役たち：
世界一華麗な王宮を支えた人々』
(河出書房新社)

光まばゆいキラキラ世界、ヴェルサイユ宮殿。太陽王ルイ14世が着工し、ポンパドゥール侯爵夫人がロココの美の全盛期を担い、やがて革命とともに、ルイ16世と王妃マリー・アントワネットが断頭台の露と消えるまでの100有余年の間、ブルボン王朝の栄華の舞台となりました。

本書は当時の日記や書簡などをもとに学者が書いた史実です。登場人物には、きらめくドラマがあるわけでも、洒落たエピソードが残っているわけでもありません。当時、宮廷にはさまざまな仕事がありました。それぞれの立場でそれぞれの役割を生きた人々の実録19章。(Y.K.)

235.05 ||Lev



⑥ ペーター・ハントケ 原著 元吉瑞枝 訳

『幸せではないが、もういい』
(同学社)

本書は2019年にノーベル文学賞を受賞したオーストリア出身のペーター・ハントケが、51歳で自殺した母について描いた小説であり、言葉にできない出来事を言葉にしようとした著者の葛藤の記録でもあります。

当時小説家としてすでに多くの前衛的な作品を発表していた著者ですが、母の死という大きな出来事を書くためにあえて小説家としての言葉ではなく、ごくありふれた言葉と向き合います。それは戦争の抑圧のもと、ありふれた人生に押し込まれた母の人生を見つけようとする試みだったのかもしれない。

この印象的な題名は訳者の解釈によるもので、直訳は「もうこれ以上望みようもないほど不幸せ」となるそうです。この題名からあなたはどのような物語を想像しますか。(N.O.)

943 ||Han

⑧ 北村紗衣

『お砂糖とスパイスと爆発的な何か：
不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』
(書肆侃侃房)

『アナと雪の女王』や、シェイクスピア劇など、映画、戯曲、文学の有名作品を対象に、「フェミニスト批評」を用いた批評集です。本作を元に、対象作品の女性像やジェンダー観に注目してみてください。作品に込められているステレオタイプへの諷刺、あるいは隠れた性差別に気づくことで、作品と自分がより近づくと思います。また、本作を通して、自分の批評性を意識できるのではないのでしょうか。普段「あたりまえ」と思っていることは、「なぜあたりまえなのか」、時代背景と併せて考察したり、その環境が自分に与えてきた影響を振り返るきっかけになるとと思います。(S.O.)

904 ||Kit